
A I 戦闘

ドライツェン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

AI戦闘

【Nコード】

N7207X

【作者名】

ドライツェン

【あらすじ】

ものすごい田舎に住んでいた主人公達ののんきな生活が敵の襲来により命を懸けた壮絶な戦いに巻き込まれていくしかしそれは定められた運命だった

AIを利用した新しい戦い方そんな世界を描いていきます

プロローグ

僕は森の中を走っている。

「前方にBR2000が2機16秒後に接触気をつけて」

声が直接脳に響いてくる。

「おう、右は僕が君は左を頼む」

「わかったわ後5秒」

一見2人で会話しているようだがこの場には敵と自分しか存在していない、しかし僕は確かに彼女と会話している。

そう脳に直接インストールされたAIである彼女と。

僕の両手には手のひらサイズで筒状のものが握られている

「セイバーを展開して」

「はい」

ビュン

風を切る音とともに握られていた筒状のものから光の刃が伸びていく

つまいこいつは俗に言うライトセイバーってやつだ。

僕は右手に意識を集中させさらに左の敵はまったく気にせず右の敵だけを見ている

そして右から来た敵に思いきり斬りかかって行った

だが

いとも簡単に避けられてしまい一瞬の硬直が生じる

そこえは左からもう一体が飛びかかってきた

右に全身系を集中していたため普通ならまったく反応できない

しかし左手だけが勝手に反応し

飛びかかって来た敵は想定外の攻撃に空中で一刀両断ぶった切られてしまった

残るは右の1機のみ

「僕が上、君は下を」

「わかったわ任せて」

右手に集中していたのを今度は上半身全体へ切り替える

さらには下半身集中していた意識もすべて上半身へ

本来ならここで立っていられず倒れていただろう

しかし頭なの中の彼女が下半身のコントロールをしてくれているためそうはならない

敵は銃を撃ってきているが常人ではありえないスピードで避けているこれは彼女が避けることだけを考えて下半身を動かしてくれてるためだ

そして僕は上半身だけさらに攻撃のためだけに集中できる

その僕から繰り出される攻撃スピードも常人をはるかに超える

バシユ

高速で繰り出される斬撃に敵は避けきれず斬られ爆発

もうこの場に敵はいなくなった

「訓練終了、訓練終了」

アナウンスが入る

周りの薄暗い森が消え去りさっぷうけいで広い部屋へと変わっていく

「はー今日も疲れた」

プロローグ（後書き）

初めて書いたので表現がへたくそですが読んでいただきありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7207x/>

A I 戦闘

2011年11月12日21時53分発行